

ごみの出し方を見直そう!

夏場のゴミ対策 まずは水切りから

毎年7月から9月にかけては、ごみの量が増える時期です。家庭から出る燃やせるごみには水分が多量に含まれています。水分をなくすことで簡単にゴミを減らすことができます。また、水分を減らすことは環境フリーンセンターでの処理効率の向上にもつながります。特に夏場のゴミ出しは、家庭で十分に水切りをしていただくようお願いいたします。

生ごみの70〜80%は水分

過去5年間の家庭から出された燃やせるごみの量を月平均で見ると、年間で一番多いのは8月で1か月約千800t、一番少ないのは2月で約千200tです。夏は冬に比べると約1.5倍の燃やせるごみが出されていることになります。夏の燃やせるごみの中で特に多いのは「生ごみ」です。夏場は、水分が多い果物などの消費が多くなり、重量が増えることが原因です。

市内から出るごみの組成分析結果では、家庭から出る燃やせるごみの量の約30%は生ごみで、そのうち70〜80%が水分



70〜80%が水分

80%が水分です。

収集車（パッカー車）1台につき、2kgの燃やせるごみを積載した場合、軽く圧縮するだけで1台につき約50ℓの汚水が出ます。



50ℓが汚水

水分の多い生ごみは、腐敗し易く臭いの原因となります。家庭でしっかりと水分を切ることでごみの減量や、環境フリーンセンターでの処理効率の向上、処理費用の軽減にもつながります。



効率向上 費用軽減

水切りのコツ

- ・乾燥している生ごみは濡らさない。
- ・野菜、果物の皮などは使えない部分を洗う前に取り除き、トレーに乗せ乾燥させた後、直接ゴミ箱へ。
- ・お茶や野菜くずなどは、太陽にあて水分を飛ばす。
- ・水切りネット、市販の水切り器を使い、最後にひと絞りする。

生ごみ堆肥化にご協力を

家庭でも生ごみ堆肥化容器などを利用して、生ごみを堆肥として活用すると、ごみの減量につながります。市では、平成22年度から生ごみ堆肥化容器の購入助成を行っていますので、ぜひご利用ください。

助成できる堆肥化容器の種類は、ダンボール式容器、密閉式容器、コンポスターです。助成額は購入価格が千円未満の場合はその購入価格で、上限額は千円です。台数は、1世帯につき年間1台までです。

主にダンボール式容器は室内、密閉式容器・コンポスターは屋外での使用になります。用土や土壌改良剤を使用し生ごみを混ぜ合わせることで、約2〜3か月で堆肥ができます。臭いの発生は、ハーブや柑橘系の皮、珈琲豆のかすなど

集団資源回収を利用しましょう!

自治会、学校など各種団体では、自主的なリサイクル活動として集団資源回収を行っています。

新聞紙、ダンボール、金属類などの資源物は、ごみとして捨てずに、集団資源回収に積極的に取り組むことでリサイクルを進めましょう。回収品目、回収日などは、各団体で独自に決めていますので、詳細は各団体の役員などにお問い合わせください。

★集団資源回収の出し方

新聞紙 チラシも一緒に、ひもで十文字に縛る／雑誌 大きさをそろえ、ひもで十文字に縛る／ダンボール 折りたたんで、ひもで十文字に縛る／紙パック 水洗いし開いて乾かし、ひもで十文字に縛るか袋に入れる／紙箱類 ビ

ニールなどをはずし、ひもで十文字に縛る／びん キャップをはずし、水洗いして袋に入れる／かん アルミとスチールに分け、水洗いして袋に入れる／金属類 金属以外の部品を全て取りはずす／布類 柔らかい木綿系の布で白色または白色に近いもの。

11 [詳細] 減量推進課 ☎ 383・42

ごみ収集車の火災が多発しています

収集車の火災が今年度になってから4月2件、5月2件発生しています。発生原因は「燃やせないごみ」に混じていたスプレー缶・ガスカセット缶・ライターが収集車内で発火し、他のごみに引火したことによるものです。重大な火災になることを防ぐためにも、ごみは正しく分別し、スプレー缶・ガスカセット缶・ライターは危険ごみの日にごみステーションに出してください。

なお、ごみの出し方などについては、配布してあります「分別の手引き」をご覧ください。
[詳細] 廃棄物対策課 ☎ 383 - 4217

